



ICO複合指標価格は乱高下し回復したが、依然として明確な方向性を欠く

■ グリーンコーヒー価格

- ICO複合指標価格(I-CIP)は2025年4月、平均335.76 セントとなり、2025年3月比で3.5%減少。
- コロンビアマイルドとアザーマイルドの価格は、それぞれ2025年3月比で2.7%および2.8%下落し2025年4月の平均価格はそれぞれ394.14 セントと392.84 セントとなった。
- ブラジルナチュラルは3.6%下落し378.27 セント、ロブスタは4.4%縮小して246.39 セントポンドとなった。
- 2025年3月から4月にかけて、コロンビア産マイルドとアザーマイルドの価格差は0.95 セントから1.30 セントに拡大。
- ロンドンとニューヨークの先物市場間のアービトラージは、2025年4月にさらに0.3%縮小し、134.67 セントとなった。
- ロンドン先物市場の2025年4月のロブスタ認証在庫は、3.1%減少し71万袋だった。ニューヨーク先物市場のアラビカ認証在庫は逆方向に強い動きを示し、2025年3月に対し6.4%増加し、85万袋だった。

■ コーヒーグループ別輸出 - 生豆

- 2025年3月の生豆輸出状況：
- 生豆の総輸出は1,164万袋、前年同月の1,175万袋から0.9%減少。
- コロンビア産マイルドは、2024年3月の106万袋から25.3%増加し133万袋だった。
- アザーマイルドは、同期間で215万袋から5.9%増加し227万袋だった。
- ブラジルナチュラルは、2024年3月の357万袋から2.4%減少して349万袋だった。
- ロブスタは、2024年3月の497万袋から8.4%減少し455万袋だった。
- 2024/25コーヒー年度の最初の6ヶ月間（25年3月まで）の全生豆輸出におけるアラビカのシェアは、前年同期間の59.7%から63.0%に上昇した。

■ 地域別コーヒー輸出量（全形態）

- 2025年3月の全コーヒー形態の輸出状況：
- 世界全体では、2024年3月の1,292万袋から0.6%増加し1,300万袋だった。
- アジア・オセアニアは地域は、2024年3月の456万袋から6.1%増加し484万となった。
- アフリカ地域は、2024年3月の116万袋から36.3%増加し158万袋だった。
- 南米地域は、2024年3月の551万袋から15.9%減少し464万袋だった。
- メキシコ・中央アメリカ地域は、2024年3月の169万袋から15.3%増加し194万袋だった。

■ 形態別のコーヒー輸出量

- ソリユブルコーヒーの輸出量は、2024年3月の111万袋から15.6%増加し、2025年3月は128万袋だった。
- 焙煎豆の輸出は、2024年3月の64,964袋から27.3%増加し、2025年3月は82,684袋だった。

グリーンコーヒー価格

・ICO複合指標価格 (I-CIP) は、2025年4月の平均が335.76セントで3月比で3.5%減。

I-CIPの中央値は338.47 USセントで、価格は308.93~357.21セント間で変動した。

I-CIPは4月8日まで下落トレンドを辿り、その後徐々に反転が始まった。

2025年4月のI-CIPは、2024年4月の水準より54.8%高く、12か月ローリング平均は278.20ポンドとなっている。



・コロンビアマイルドおよびアザーマイルドの価格は、2025年3月比でそれぞれ

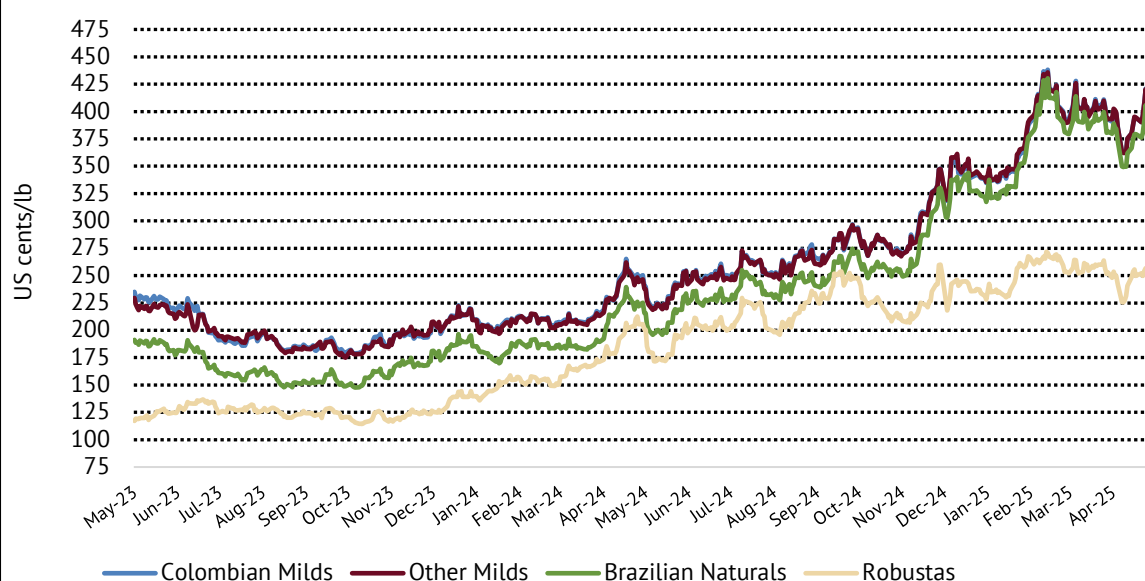
2.7%および2.8%下落し、2025年4月の平均価格はそれぞれ394.14セントと392.84 セントだった。

ブラジルナチュラルは3.6%下落し、378.27 USセントとなった。

ロブスタは4.4%縮小し、246.39 USセントとなった。

この下落の主要な要因は、ロンドン・インターコンチネンタル・コモディティ (ICE) 市場であり、同市場は4.8%下落して235.69 USセントとなった。一方、ニューヨークICE市場は2.8%縮小し、平均370.37 USセントであった。

Figure 2: ICO Group Indicator Daily Prices 図2:ICOグループ指標価格



ある特定の出来事、マクロ経済上の事象、地政学的要因などが相まって、コーヒー市場にネガティブな不確実性をもたらし、長期の強気相場の中で回復していたICO複合指標価格(I-CIP)に大きな動揺を与えた。実際、2025年4月8日にはI-CIPが4か月ぶりの安値、308.93 USセントに達し、2025年1月21日以来の水準となった。

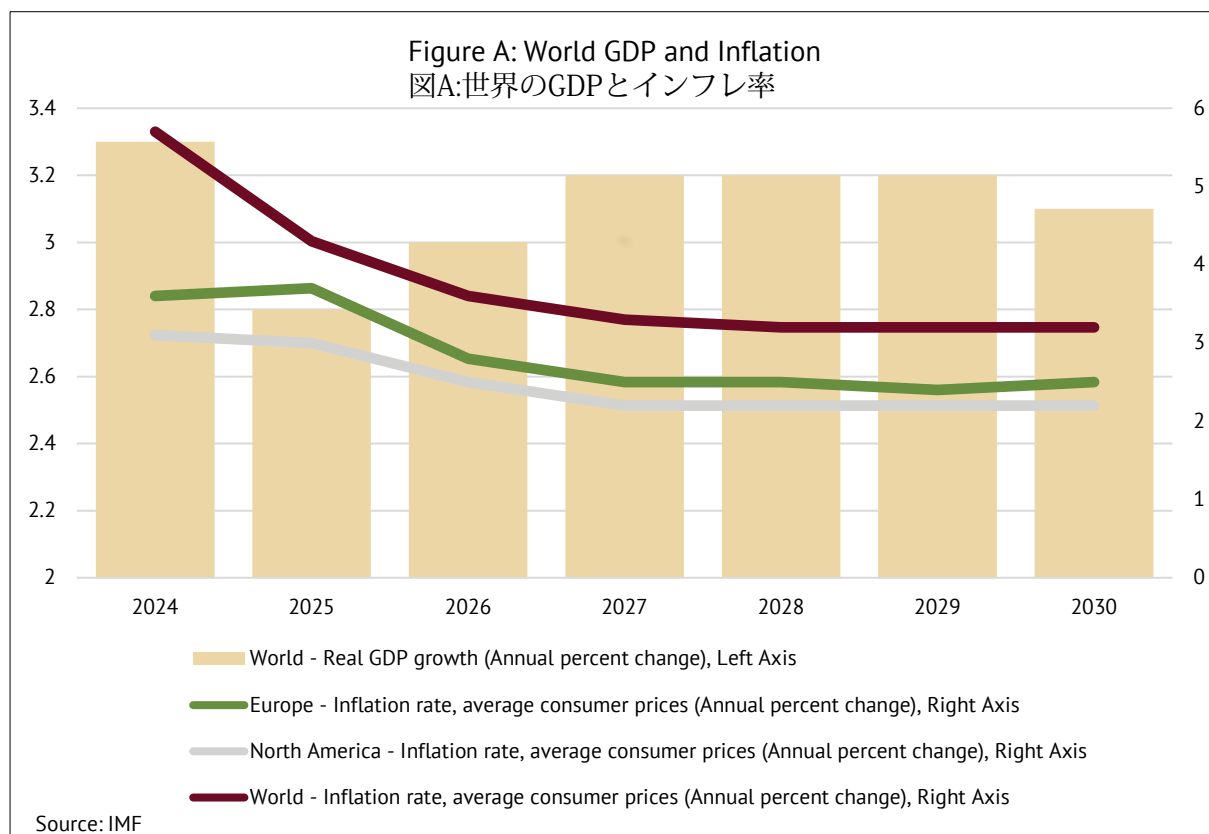
これは、2025年4月2日に米トランプ大統領が発表した新たな関税政策により、32.59 USセントの下落を招いたためである。しかし、4月9日に、その関税を90日間停止する声明が発表されるや市場は反転、I-CIPは素早く回復した。最新の動向からは、コーヒー価格が方向性を模索している状況であり、強気要因と弱気要因の双方が市場に影響を与えているものの、強気要因が優勢であることが示唆されている。

【強気要因】

- ブラジル最大のアラビカコーヒー協同組合であるCooxupéは、先月のブラジルにおける高温と平年未満の降水量が、今年のコーヒー収穫量に悪影響を及ぼすと発表した。
- 世界のインフレーション率が2024年の5.7%から2025年には4.3%、2026年には3.6%に低下するとの楽観論があるほか、GDP回復が見込まれ、これに伴って需要が持続的に増加するとの予測（以下の図A参照）もICO複合指標価格(I-CIP)の支持材料となっている。
- コーヒーは低価格弾力性商品であり、複数の価格帯で幅広い製品が提供されているため、需要の変動があまり大きくなく、高価格を維持できる状況にある。
- 関税免除に対する市場の楽観論も存在し、関税関連のリスクを恐れることなく、価格がさらに上昇し続ける可能性があると考えられている。
- 先物市場が逆ザヤになっており、期近の受渡価格にはプレミアムが付いている状況。
- さらに、2025年4月1日～3日、および11日～23日にかけて、コロンビアマイルドとアザーマイルドの値差が低く、また時にはマイナスとなっており、市場におけるアザーマイルドの供給不足を示唆している。

【弱気要因】

- 相互関税が維持される中、関税費用増加による小売コーヒー価格の上昇が、需要の低下を招く可能性がある。
- 2025年4月1日付で、コーヒー「C」先物市場の対象オリジンにベトナムが追加され1ロットは37,500ポンドのアラビカ（ウォッシュド）で、価格差は-600ポイントとなる事が公表された。これにより、目的地港での商業用コーヒーの供給が増加し、供給不安が軽減される可能性ある。



【価格差】の動向としては、

- コロンビアマイルドとアザーマイルドの価格差は、2025年3月から4月に0.95セントから1.30 セントに拡大した。
- コロンビアマイルドとブラジルナチュラルの価格差は27.1%拡大し、15.87セントに達した。
- 一方、コロンビアマイルドとロブスタの価格差は、2025年3月から4月にかけてわずか0.3%増加し、平均147.75 セントとなった。
- アザーマイルドとブラジルナチュラル、アザーマイルドとロブスタの価格差はそれぞれ26.2%および0.0%変動し、14.57 セントおよび146.44 セントとなった。
- さらに、ブラジルナチュラルとロブスタの価格差は2.2%縮小し、2025年4月は平均131.87 セントであった。

ロンドンとニューヨークの先物市場間で測定されたアービトラージは、2025年4月にさらに**0.3%縮小し、134.67 USセント/ポンド**となった。

図3:ニューヨークとロンドン先物市場アービトラージ

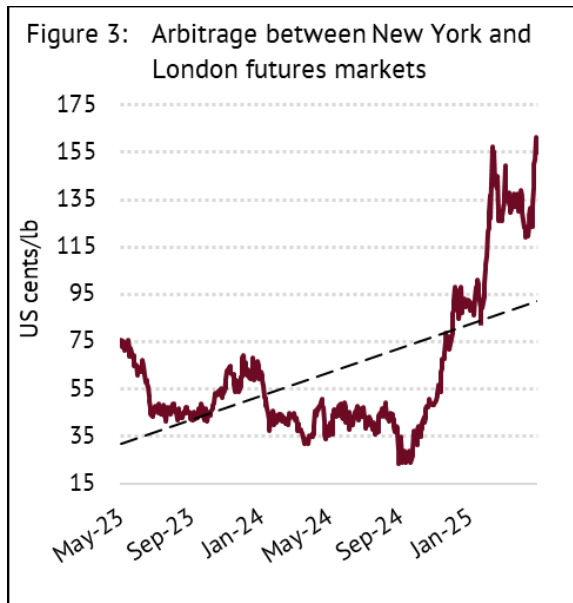
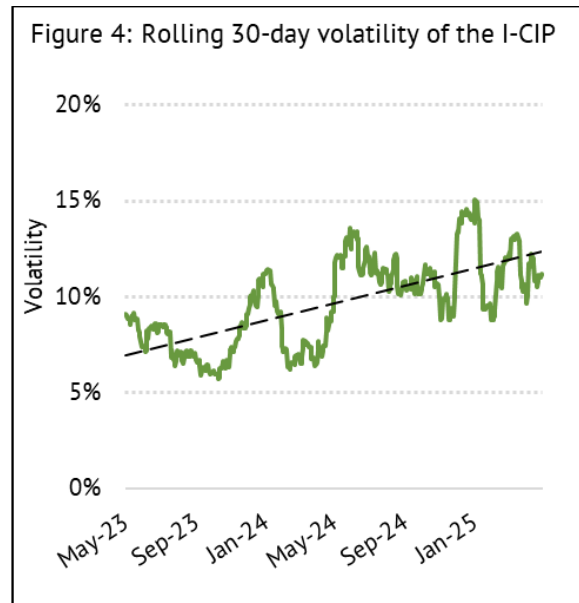


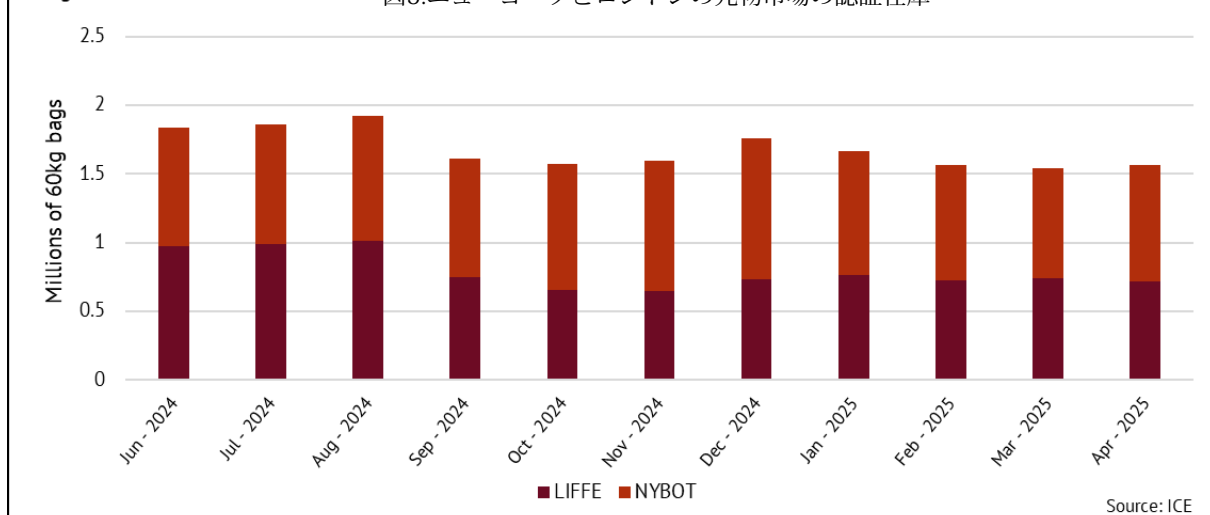
図4:ICO複合指標価格のボラティリティ30日移動平均



ICO複合指標価格の日内ボラティリティは、2025年3月に比べ1.1ポイント低下し、2025年4月の平均は11.2%となった。コロンビア産マイルド、アザーマイルド、ブラジルナチュラルのボラティリティは、それぞれ前月比で2.8ポイント、2.7ポイント、2.7ポイント低下し、2025年4月はそれぞれ11.2%、11.3%、11.6%となった。一方、ロブスタのボラティリティは2025年4月に11.5%へと上昇し、2.5ポイント拡大した。ニューヨーク市場のボラティリティは2.8ポイント低下して12.4%となる一方、ロンドン先物市場のボラティリティは逆に1.9ポイント上昇して11.7%となった。

Figure 5: Certified Stocks

図5:ニューヨークとロンドンの先物市場の認証在庫

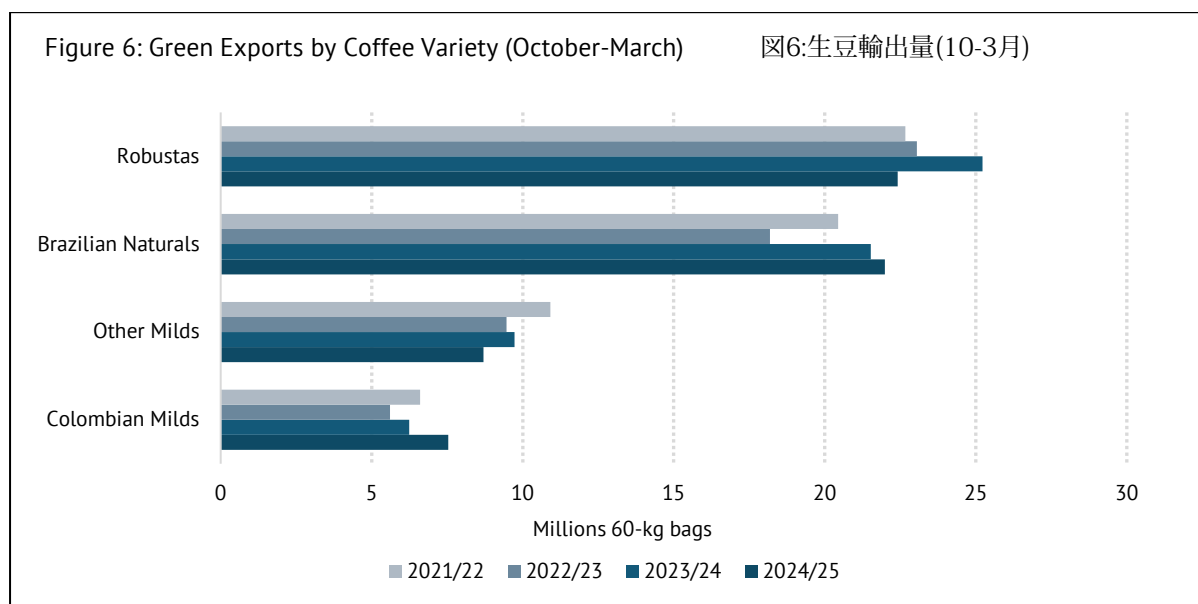


Source: ICE

ロンドン先物市場のロブスタ認証在庫は、2025年3月から4月にかけて**3.1%減少し、月末は71万袋**となった。ニューヨーク先物市場のアラビカ認証在庫は逆方向の動きを示し2025年3月比で**6.4%増加して85万袋に拡大した**。

【コーヒーグループ別の生豆輸出量】

2025年3月の全体の生豆輸出は1,164万袋となり、前年同月の1,175万袋から0.9%減少した。これは2024/25コーヒー年度において、生豆合計が3か月連続で減少していることを示している。その結果、2023年10月～2024年3月の年初来輸出量6,262万袋と比較して、同時期の輸出量は6,063万袋となり、3.2%減少した。



【コロンビアマイルド】

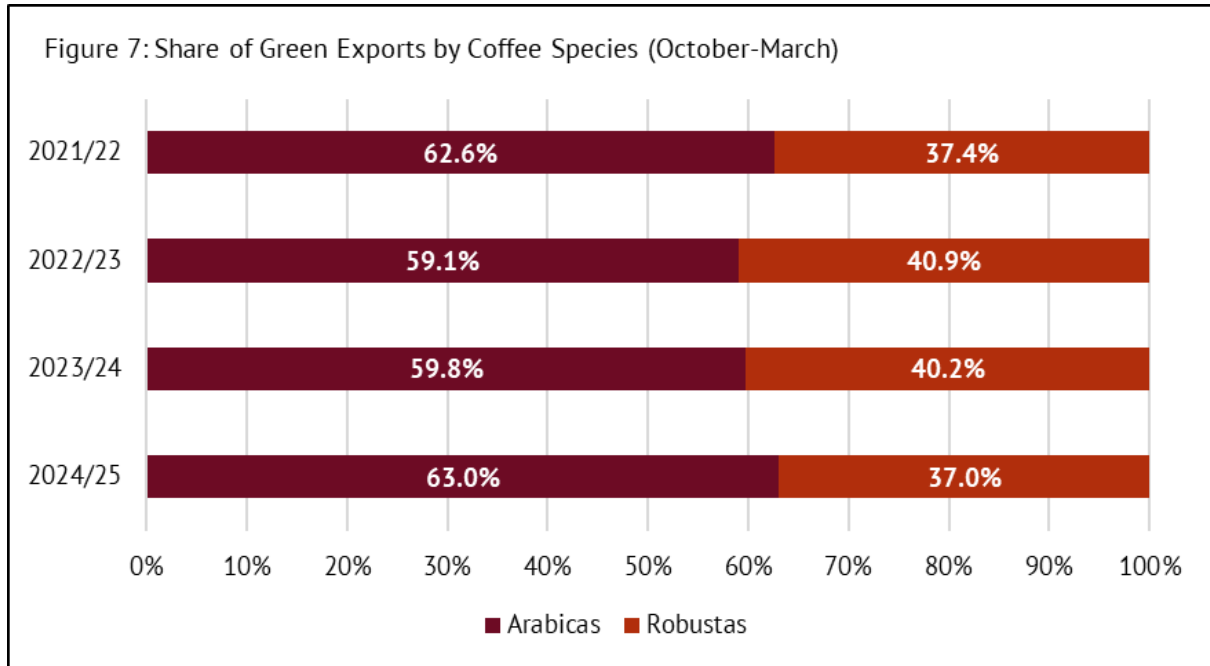
2025年3月のコロンビアマイルドの輸出は、2024年3月の106万袋から25.3%増加し、133万袋に達した。コロンビアマイルドは8か月連続でプラス成長を記録しており、最新の二桁成長の主な原産地としてコロンビアが躍進していることを示している。

同国のコロンビアマイルド輸出量は、2024年3月の93万袋から25.2%増加して116万袋になった。

【アザーマイルド】

2025年3月のアザーマイルドの輸出は、2024年同月の215万袋から5.9%増加し、227万袋となった。これは、コスタリカ、エチオピア、ホンジュラスなど複数の原産地からの貢献により、合計で22万袋の純増となった。一方で、メキシコ、パプアニューギニア、ペルーでは、輸出量が合計で16万袋減少しており、これらの原産地が部分的に相殺する形となった。特に、コスタリカでは2024年3月の異常な輸出量（わずか8万袋）に対し、2025年3月は53.2%の大幅上昇となりましたが、その背景には前月の輸出が27.3%低下していたためと考えられる。なお、2024年3月の異常な輸出状況は、アザーマイルドのみならず、全体の輸出にも影響を及ぼしていた。

図7:生豆輸出量内訳 (10-3月)



ブラジルナチュラルの生豆輸出は、2025年3月に357万袋から2.4%減少し、349万袋となった。下落の主な要因はブラジルであり、同国の輸出は2024年3月の307百万袋から9.4%減少して278万袋となった。このマイナス成長は、ベース効果とブラジルアラビカコーヒーの強いサイクル性によるものである。2023/24コーヒー年度は、ブラジルナチュラル輸出にとり表作とされ、年間で21.4%増、さらに2024年3月は2023年3月比で16.1%増加していた。エチオピアが主要な緩和要因として働き、エチオピアの輸出が65.4%急増し、2024年3月には26万袋だったのが43万袋に達したため、ブラジルの下落のマイナスの影響を緩和した。この増加は、2024/25コーヒー年度の新たな供給の前倒しと、大量の在庫放出が組み合わさった結果であり、エチオピアが高い国際コーヒー価格相場を活用したものと考えられる。

ロブスタの生豆輸出は、2024年3月の497万袋から8.4%減少し、2025年3月は455万袋となった。下落の主な要因はブラジルであり、ブラジルのロブスタ輸出は2024年3月の85万袋から83.6%減少して14万袋となった。この急激な下落は、2023年7月から2024年12月にかけて異常な高水準を示していたブラジルの輸出が、比較的正常な水準に戻ったことを反映している。

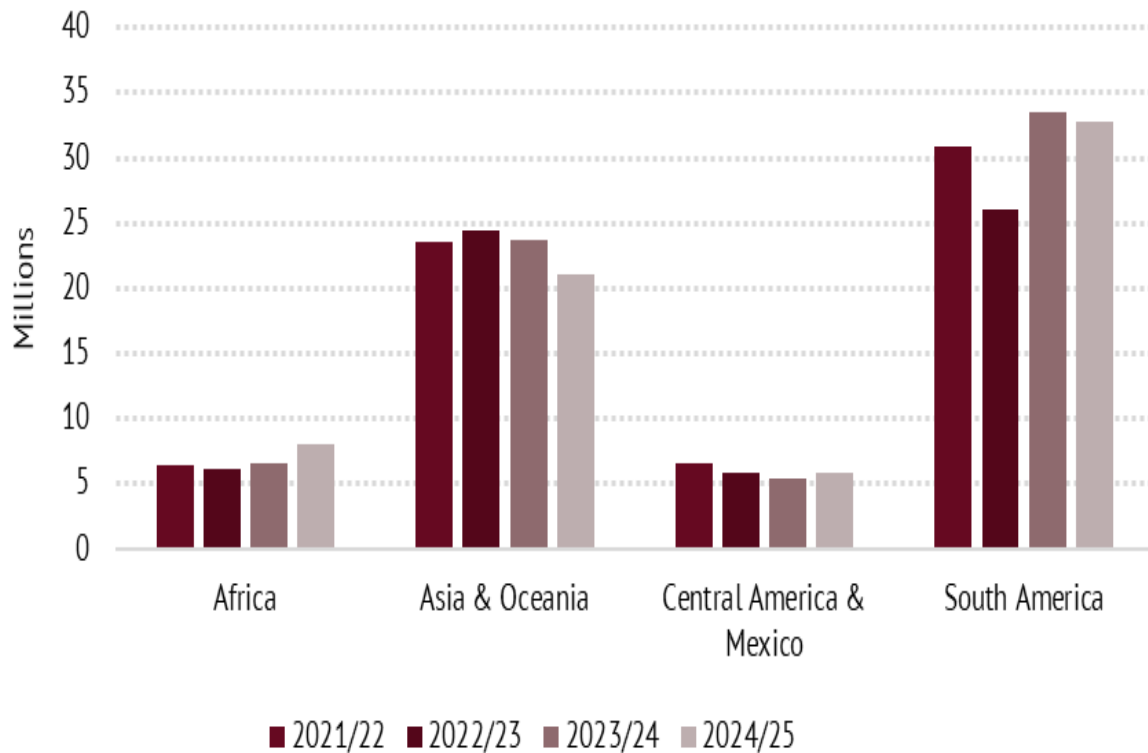
また、2024/25コーヒー年度の最初の6ヶ月間（2025年3月まで）における全生豆輸出の中で、アラビカのシェアは前年同期間の59.7%から63.0%に増加した。

地域別コーヒー輸出量-全形態

2025年3月の世界のコーヒー輸出量は、2024年3月の1,292万袋に比べて0.6%増加し、1,300万袋となり、3か月連続のマイナス成長の後、2か月連続でプラス成長となった。10月以降の輸出量は、前年同時期の6,920万袋から6,773万袋に減少した。4地域中3地域は輸出が拡大したが、南米だけが下落した。これにより南米の全輸出に占めるシェアは2025年3月に35.7%まで減少し、2023年6月に記録した34.6%以降、南米の世界輸出に占める月間シェアとして最低値となった。

Figure 8: Total Exports by Producing Regions (October-March)

図8:生産地域別輸出量(10-3月)



2025年3月のアジア・オセアニア地域における輸出量は、2024年3月の456万袋から484万袋へ6.1%増加しました。インドネシアがこの増加を牽引し、同国の輸出は2024年3月の38万袋から2025年3月には86万袋へ、125.4%の大幅な伸びを示した。この高い成長率は、ベース効果(反動増)および「裏年」と「表年」の生産サイクルの影響を反映している。さらに、記録的な高価格、特にロブスタ種の高値に対応するため、余剰在庫が市場に放出されたことも、2025年3月の絶対輸出量が過去最高水準となった理由の一つと考えられる。一方、ベトナムはマイナスとなり、2024年3月の322万袋に対し、2025年3月は309万袋となり4.0%減少した。

アフリカ地域の輸出量は、2024年3月の116万袋から2025年3月には158万袋へ36.3%増加し、地域としては16か月連続でプラス成長となった。エチオピアとウガンダが2025年3月の成長を主導、各々の輸出は65.8%および72.9%増加し、63万袋と57万袋に達した。両国とも、豊作による供給拡大と国際市場での高価格、「船積前倒し」の影響が主たる要因である。一方、コートジボワールは大きく落ち込み、2024年3月の18万袋から2025年3月には4万袋へ80.6%減少しました。エチオピアやウガンダと対照的に、同国においては不作が輸出減少の主要因である。

南米では、2025年3月輸出量は、2024年3月の551万袋から464万袋へ15.9%減少した。これは14か月連続のプラス成長の後、4か月連続でマイナス成長となっている。この下落は主にブラジルによるもので、同国の輸出は2024年3月の551万袋から15.9%減の464万袋となっており、その要因はベース効果(反動減)によるものである。2023/24コーヒー年度で、ブラジルは史上最高の4,903万袋を輸出し、前年度比で1,252万袋(34.3%増)の大幅な伸びを記録していた。この増加の大部分は、不作による供給問題に直面していたベトナムの状況に対応するためのものであり、2023/24コーヒー年度ではベトナムの輸出が11.7%減少し、ネットで331万袋の減少となっていた。しかし、2024/25年度の収穫分から新たな供給が豊富に確保されるようになり、この特需は続かず、その結果、ブラジルの輸出は減少した。

2025年3月、メキシコ・中央アメリカ地域の輸出量は、2024年3月の169万袋に対し15.3%増加して194万袋となった。これは、不作により輸出が4.4%減少した2023/24コーヒー年度の反動によるものである。メキシコ・中央アメリカ地域は、2021/22コーヒー年度以来、長期的なサイクルとして下落傾向にある。2010/11コーヒー年度から、同地域の輸出は、3～4年の増加期と3～4年の減少期という循環パターンを示しており、COVID-19の影響で混乱した2019/20年度を除くと、2023/24コーヒー年度は4年連続のマイナス成長となった。この傾向が続くなら、2024/25年度は再び3～4年の上昇サイクルの始まりとなるだろう。ホンジュラスとメキシコが同地域の輸出の主要産地国であり、2024年に各々72万袋および22万袋から、2025年3月にはそれぞれ12.7%および33.6%増加し、81万袋と29万袋となった。

形態別コーヒー輸出量

ソリュブルコーヒーの輸出量は、**2024年3月の111万袋から15.6%増加し、2025年3月は128万袋**となった。

2024/25コーヒー年度（2024年10月～2025年3月）のコーヒー総輸出量に占めるソリュブルコーヒーのシェアは、2023/24年度に比べ9.0%から9.9%に増加した。2025年3月において、ブラジルはソリュブルコーヒーの最大輸出国であり、33万袋を輸出した。焙煎豆の輸出は、2024年3月の64,964袋から27.3%増加し、2025年3月は82,684袋に達した。

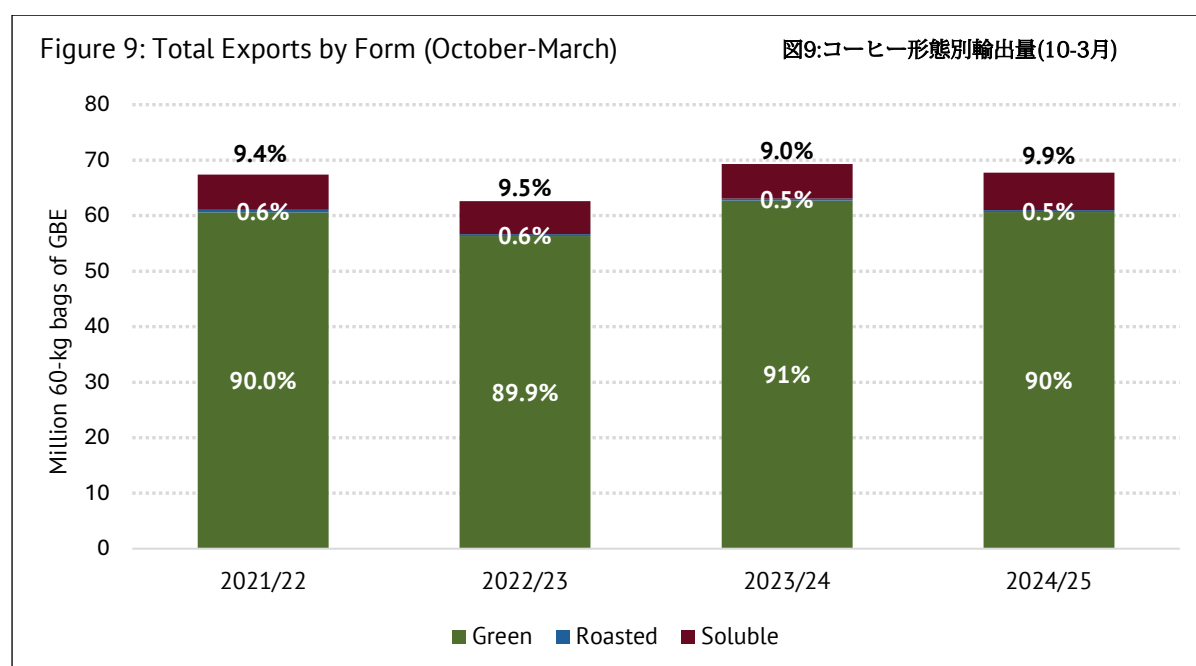


表1:ICO指標価格と先物価格(US cents/Lb)

	ICO Composite	Colombian Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
Monthly averages							
May-24	208.38	233.50	232.11	209.78	184.97	208.86	165.11
Jun-24	226.83	250.39	248.39	229.25	204.30	226.47	182.82
Jul-24	236.54	257.82	257.10	239.70	214.72	235.15	193.93
Aug-24	238.89	263.67	261.38	242.15	214.69	239.29	197.81
Sep-24	258.84	279.27	278.52	257.24	241.93	254.43	225.13
Oct-24	250.56	277.10	276.82	255.85	221.93	250.62	207.11
Nov-24	270.72	306.21	304.98	285.59	226.11	277.04	214.43
Dec-24	299.61	341.00	343.34	326.97	236.73	317.00	226.28
Jan-25	310.12	351.93	354.47	339.18	245.29	328.94	234.33
Feb-25	354.32	410.64	409.48	401.10	263.08	388.18	253.48
Mar-25	347.85	404.97	404.02	392.48	257.61	382.75	247.63
Apr-25	335.76	394.14	392.84	378.27	246.39	370.37	235.69
% change between Mar-25 and Apr-25							
	-3.5%	-2.7%	-2.8%	-3.6%	-4.4%	-3.2%	-4.8%
Volatility (%)							
Mar-25	12.3%	14.0%	14.0%	14.3%	9.0%	15.2%	9.8%
Apr-25	11.2%	11.2%	11.3%	11.6%	11.5%	12.4%	11.7%
Variation between Mar-25 and Apr-25							
	-1.1	-2.8	-2.7	-2.7	2.5	-2.8	1.9

* Average prices for 2nd and 3rd positions

表2:価格差 (USD cents/Lb)

	Colombian Milds Other Milds	Colombian Milds Brazilian Naturals	Colombian Milds Robustas	Other Milds Brazilian Naturals	Other Milds Robustas	Brazilian Naturals Robustas	New York* London*
May-24	1.39	23.72	48.53	22.33	47.14	24.81	43.74
Jun-24	2.00	21.13	46.08	19.13	44.08	24.95	43.65
Jul-24	0.72	18.12	43.10	17.40	42.38	24.98	41.21
Aug-24	2.29	21.53	48.98	19.24	46.69	27.45	41.48
Sep-24	0.75	22.03	37.34	21.28	36.60	15.31	29.30
Oct-24	0.28	21.25	55.17	20.97	54.89	33.92	43.50
Nov-24	1.24	20.62	80.10	19.38	78.87	59.48	62.60
Dec-24	-2.34	14.03	104.27	16.37	106.61	90.24	90.72
Jan-25	-2.54	12.75	106.64	15.30	109.18	93.88	94.60
Feb-25	1.16	9.54	147.56	8.37	146.40	138.03	134.70
Mar-25	0.95	12.49	147.37	11.54	146.42	134.87	135.11
Apr-25	1.30	15.87	147.75	14.57	146.44	131.87	134.67
% change between Mar-25 and Apr-25							
	37.3%	27.1%	0.3%	26.2%	0.0%	-2.2%	-0.3%

* Average prices for 2nd and 3rd positions

表3輸出国の総輸出力

	Mar-24	Mar-25	% change	Year to Date Coffee Year		
				2023/24	2024/25	% change
TOTAL	12,919	13,002	0.6%	69,197	67,731	-2.1%
Arabicas	7,408	7,879	6.4%	40,934	42,298	3.3%
Colombian Milds	1,154	1,432	24.1%	6,689	8,056	20.4%
Other Milds	2,420	2,655	9.7%	11,127	10,466	-5.9%
Brazilian Naturals	3,834	3,792	-1.1%	23,118	23,776	2.8%
Robustas	5,511	5,122	-7.1%	28,263	25,433	-10.0%

In thousand 60-kg bags

Monthly trade statistics are available upon subscription

表4: 世界のコーヒー需給バランス

Coffee Year	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24*	% change
PRODUCTION	169.8	168.4	170.8	168.0	168.2	178.0	5.8%
Arabica	99.5	96.4	100.6	92.3	94.0	102.2	8.8%
Robusta	70.3	72.0	70.3	75.7	74.2	75.8	2.1%
Africa	18.5	18.5	19.2	19.3	17.9	20.1	12.1%
Caribbean, Central America & Mexico	21.3	19.2	19.7	18.9	19.2	18.7	-2.5%
South America	81.9	81.1	83.9	77.6	81.3	89.3	9.8%
Asia & Oceania	48.1	49.6	48.0	52.2	49.8	49.9	0.3%
CONSUMPTION	171.2	168.6	169.9	176.6	173.1	177.0	2.2%
Exporting Countries	52.5	52.2	53.1	54.4	55.1	56.5	2.6%
Importing Countries (Coffee Year)	118.6	116.4	116.8	122.2	118.1	120.5	2.1%
Africa	11.9	12.1	13.0	12.9	12.2	12.5	2.6%
Asia & Oceania	39.9	40.1	42.2	44.2	44.5	45.7	2.7%
Caribbean, Central America & Mexico	5.8	5.8	5.9	6.0	6.0	6.1	2.3%
North America	31.8	30.6	30.2	31.3	29.8	30.9	3.8%
South America	26.3	26.0	26.4	27.0	27.5	28.0	1.6%
Europe	55.5	54.0	52.2	55.2	53.1	53.7	1.1%
BALANCE	-1.3	-0.2	0.9	-8.6	-4.9	1.0	

*preliminary estimates

表5ニューヨーク先物市場とロンドン先物市場

	May-24	Jun-24	Jul-24	Aug-24	Sep-24	Oct-24	Nov-24	Dec-24	Jan-25	Feb-25	Mar-25	Apr-25
New York	0.84	0.86	0.87	0.91	0.87	0.91	0.95	1.03	0.91	0.84	0.80	0.85
London	0.78	0.97	0.99	1.01	0.74	0.66	0.65	0.73	0.76	0.72	0.74	0.71

In million 60-kg bags

【表4の解説】

各年ごとに、事務局は加盟国から受領した統計データを利用して、年間の生産、消費、貿易、在庫の推計と予測を行っている。文書ICC-120-16の100段落に記載されているように、加盟国からの情報が不完全、遅延または一貫性がない場合、その他の情報源からのデータで補完・補強することが可能である。事務局は、非加盟国の需給バランスシートを作成する際にも複数の情報源を考慮している。

事務局は世界の需給バランスを検討する際、マーケティングイヤー、すなわち各年10月1日に始まるコーヒー年度の考え方を採用している。コーヒー生産国は世界各地に存在し、収穫から次の収穫までの12か月間を示す「作付年」が地域ごとに異なります。現在、事務局が使用している作付年は、4月1日、7月1日、および10月1日に開始します。一貫性を保つため、事務局は各国の収穫月に基いて、作付年単位の生産データをマーケティングイヤー単位に変換します。コーヒーイヤー単位で世界のコーヒー需給および価格を扱うことで、市場状況の分析が同一期間内で行われることが保証される。

たとえば、2020/21コーヒー年度は2020年10月1日に始まり、2021年9月30日に終了した。しかし、収穫開始が4月の場合、生産は2つのコーヒー年度にまたがって発する。ブラジルの2020/21作付年は2020年4月1日に始まり2021年3月31日に終了し、これは2020/21コーヒー年度の前半をカバーする。一方ブラジルの2021/22作付年は2021年4月1日に始まり2022年3月31日に終了し、これは2021/22コーヒー年度の後半に該当する。作付年の生産を一つのコーヒー年度にまとめるために、事務局は2020/21作付年（4月～3月）の生産の一部と2021/22作付年（4月～3月）の生産の一部を2020/21コーヒー年度の生産として割り当てることとする。

なお、各国ごとのコーヒー年度生産の推計は、分析目的のために一貫した集計需給バランスを作成することを目的として算出されており、各国現地で実際に生産された量をそのまま反映しているわけではない。

【注記】

提供された資料は、国際コーヒー機構（ICO）を出所として明示すれば、電子的・機械的手段、コピー、録音、または情報保存・検索システムの利用など、あらゆる方法で全体または一部を使用、複製、送信することが可能である。